

2008年度湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」

グローバル・ガバナンスに関するシンポジウム

(講演会及び慶應義塾大学・同志社大学合同討論会)

慶應義塾大学3年 香川敏幸研究会 飯濱玲香 s06071ri@sfc.keio.ac.jp

香川研究会参加者：12名

1、はじめに

本シンポジウムは、福山哲郎参議院議員(民主党政調会長代理、参議院民主党政審会長)の講演及び、慶應義塾大学香川敏幸ゼミと同志社大学大矢根聡ゼミによる研究成果発表や討論を通して、グローバル・ガバナンスに対する理解を深めるものである。まず、福山哲郎参議院議員による、地球環境問題のテーマでグローバル・ガバナンスに関する講演会を行った。その後、香川敏幸ゼミと大矢根聡ゼミから計6つのパネル発表を行い、福山参議院議員を交えてグローバル・ガバナンスに対する理解を深めた。

2、目的

本シンポジウムは、福山哲郎参議院議員による地球温暖化ガバナンスに関する講演、グローバル・ガバナンスに関する同志社大学の学生との研究発表会及び討論を通して、香川敏幸研究会の研究テーマである“グローバル・ガバナンス”に対する理解を深めることを目的とする。

3、活動内容

本シンポジウムは、2008年12月27日に同志社大学今出川キャンパスの神学館チャペルで行われた。具体的な活動内容は、以下の通りである。

合同ゼミスケジュール

13時30分:合同ゼミ開始の挨拶(慶應義塾大学3年飯濱玲香)

13時40分 福山参議院議員講演「地球温暖化問題をめぐる現状について」

14時40分 休憩

15時00分 慶應義塾大学パネル発表①「国際河川管理の枠組みに対する加盟国の利益認識－メコン川下流流域のタイを事例に－」

15時20分 同志社大学パネル発表①「日本の新世界秩序構築－東アジア共同体へ－」

15時40分 福山参議院議員による講評

15時50分休憩

15時55分 慶應義塾大学パネル発表②「和平交渉及び平和維持活動とPR活動」

16時15分 同志社大学パネル発表②「排出権取引委置ける公平性」

16時35分 福山参議院議員による講評

16時45分 休憩

16時50分 慶應義塾大学パネル発表③「ベトナム系住民コミュニティの日濠比較－主に宗教コミュニティから－」

17時10分 同志社大学パネル発表③「家族の人間の安全保障－その可能性と限界、そして「下から」の視線の必要性－」

17時30分 総括(同志社大学大矢根聡先生および慶應義塾大学香川敏幸先生による講

評)

18時30分 交流会

【福山参議院議員講演会】



「地球温暖化問題をめぐる現状について」というテーマで、排出権取引市場などを取り上げ、環境や経済との関わりから地球温暖化ガバナンスにおける政治の役割について講演していただいた。また、12月初旬の京都議定書締約国会議 COP14 では米国政権移行中により目立った成果がなかったことや、オバマ新政権の誕生による「ポスト京都議定書」への期待など、国際的な動向についても言及された。

【パネル発表】

福山参議院議員の講演後は、慶應義塾大学香川敏幸ゼミと同志社大学大矢根聡ゼミによる合同パネル発表を行った。慶應義塾大学からは、「国際河川管理の枠組みに対する加盟国の利益認識－メコン川下流流域のタイを事例に－」、「和平交渉及び平和維持活動とPR活動」、「ベトナム系住民コミュニティの日濠比較－主に宗教コミュニティから－」、同志社大学からは、「日本の新世界秩序構築－東アジア共同体へ－」、「排出権取引委置ける公平性」、「家族の人間の安全保障－その可能性と限界、そして「下から」の視線の必要性－」の各3つのパネル発表を行った。各パネルの発表後は、活発な質疑応答が為された。また、発表後に

は、福山参議院議員や香川教授、大矢根教授からアドバイスを頂戴した。

【交流会】

パネル発表会後は、同志社大学のカフェ・レストラン「アマーク・ド・パラディ」にて交流会が行われた。交流会では、リラックスした雰囲気の下、研究や学生生活に関する話が学生同士でされていた。

4、本シンポジウムの成果

本シンポジウムの成果として、様々な視点からグローバル・ガバナンスを理解する機会が与えられたことが挙げられる。本シンポジウムでは、地球温暖化や地域共同体、人間の安全保障、国際河川、紛争とメディア、移民・難民のテーマでグローバル・ガバナンスが語られた。日頃の研究とは異なる視点からグローバル・ガバナンスについて考える機会が与えられ、グローバル・ガバナンスに対する理解がより一層深まった。

5、謝辞

講演の依頼を快く引き受けて下さった福山哲郎参議院議員を始め、同志社大学大矢根聡先生、大矢根ゼミの皆様、香川敏幸先生はじめ香川研究会の皆様のお陰で、本シンポジウムを無事終えることが出来ました。そして、湘南藤沢学会「シンポジウム・研究ネットワークミーティング基金」の御支援に改めて感謝いたします。